



沖縄平和学習会

7月5日、アネックスパル法円坂にて沖縄県教職員組合元執行委員長の山本隆司さんを講師に招き、「命どう宝 沖縄戦とガマ ～沖縄の歴史を子どもたちにどう伝えるか～」と題して学習会を開催しました。

1970年頃、大阪では、沖縄から働きに来ている子どもが逃げ出さないよう企業がパスポートを取り上げていた問題や、定時制高校に通わせてあげると勧誘し約束を反故にしていた企業があり、大阪教組が企業の労組と手を組んで子どもたちの権利保障を行ったことを話されました。続いて、米軍の沖縄上陸にあたって、艦砲射撃やサンゴでできた沖縄本島の形が変わるほど200万トンの砲弾が打ち込まれた。しかし米軍上陸まで、死者はそれほど出なかったのはなぜか？ 摩文仁の平和祈念資料館では、ガマのジオラマで、年寄りや女性、赤ちゃん、日本兵が展示されている。その中で、女性が赤ちゃんの口を押さえているのはなぜか？また、ガマの入口を警戒している日本兵の銃口はどちらを向いているのか？などを参加者に問いかけました。また、ガマの奥の野戦病院。重傷を負った兵士にひめゆり学徒隊が包帯を巻いている。その横で粉ミルクを溶く兵士のそばには茶色の薬瓶が置かれている。兵士は負傷兵を回復させようとしているのだろうか。という問いかけもありました。

住民が避難した2つのガマ…①チビチリガマ：「国家のために命を捧げよ」「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪過の汚名を残すことなかれ」といった皇民化教育・軍国主義教育に従い、140人中83人が集団自決。②シムクガマ：ハワイ移民帰りの2人が米兵と交渉し、住民を説得。自分たちが「非国民」と罵られようとも丁寧な説得を続け、結果的には約1000人の住民が自決せずにすんだ。⇒ この違いは何か。

敗残兵と避難住民が混在したアブチラガマ。1945年6月後半には、盛んに米兵が降伏を呼びかける。前から銃を構える米兵、後ろには日本兵の銃口。その狭間でおびえる住民に与えられた選択肢は、「日本臣民としての名誉の戦死」か「非国民としての死」だった。手を上げて投降すれば後ろから日本兵に撃たれ、非国民として死ぬ。竹槍を持って米兵に撃たれば、「立派な日本臣民」として扱われる。明治以降、差別と同化の繰り返しの中で「立派な日本臣民」となる教育を徹底された沖縄住民にとって、非国民のレッテルは耐えがたいものであった。そうした中で、多くの住民が戦死あるいは「自決」した。アブチラガマの人の配置からも学んでほしい。一番奥は日本兵、出口付近に沖縄住民、出口が一番近い広場には朝鮮人がいた。米軍は当然、外から攻めてくるので、真っ先に朝鮮人が犠牲になる。朝鮮人は沖縄住民の「弾よけ」となり、沖縄住民は日本兵の「弾よけ」という配置である。ガマの中でも差別の重層構造が維持されていた。最後に、沖縄の正しい歴史をしっかりと学んでほしいと話されました。

＝ 東部支部・原発事故学習会 ＝

東部支部は、6月29日に学習会「原発事故と放射能問題を学校でどう教えるのか」が開催されました。福島原発事故被災地に何度も通り現状を見てきた木村支部長が、その現状の報告と放射能についての基礎知識を中心に学習会をすすめ、今も続いている原子力災害の問題が正しく伝えられていない現状の中で、学校現場でどう伝えていくべきかを参加者とともに考えました。「気にはなっていたが初めて現状を知った。どう伝えていくのかを考えていきたい」などの感想もあり、今後も学習を続けていく必要性を感じました。



～ 南部支部・青年部学習会 ～

6月30日、阿倍野市民学習センターで、南部支部青年部学習会が開催されました。今回は、夏に向けて、キャンプファイヤーで使えるゲームをはじめ、キャンプファイヤーの流れや作り方、そして、動きの方法を説明しながら行いました。また、参加された青年組合員の方からも自分がやってきたゲームや動きの紹介をしてもらいさらに実践を深めることができました。忙しい時期でしたが、参加者には、キャンプファイヤーの実践CDを分会に持ち帰ってもらい広めてもらうことにしました。

大阪教組 外国にルーツを持つ教職員ネットワーク学習会

◇ 日時： 8月10日(木) 18:15～ ◇ 場所： たかつガーデン2F コスモスA

◇ 内容： ・大阪教組のこれまでのとりくみ ・高校での現状 ・意見交流

・解放共闘交渉要求書検討 「在日朝鮮人教育」

「帰国・渡日等の子どもたちの教育」

…参加を希望される方は市教組までご連絡ください。 ☎6942-3561…

8月の組合費の引き落としは

8月21日(月)

※働きがいのある職場を実現
するため、なかまの声かけて
組合員を増やしましょう！

広報部メモ

昨年、学校給食の民間委託調理業務に
対応の良くない業者が参入し、その学校の栄養教職員は指導
や対応に追われた。2学期から、その業者がさらに増えるこ
とが分かり、不安が広がっている。安心・安全な学校給食が
当たり前ではないことを改めて考えさせられた。(Ka)

事務職員部

親睦行事を開催！

市教組事務職員部は、7月1日（土）、大阪ガス・ハグミュージアムで、料理体験学習が開催されました。「短い時間で親睦を深めるには料理がとても効果的」であるということから企画し、当日は、組合員とその家族など50名程の参加がありました。



料理内容は、「あつあつ飲茶 de 至福の時間」と題して、春雨のさっぱりレモン醤油和え・トマトの焼き焼売・鶏肉とカシューナッツの炒め物・ワカメスープというメニューでした。スタッフの方から料理の説明を受けて、それぞれ班に分かれて料理スタート。普段作り慣れていないメニューということもあり少し難しい工程もありましたが、それぞれの班で楽しく和気あいあいとした雰囲気の中で体験し、美味しくいただいて終了しました。それぞれのメニューの完成をめざし、協力して調理を行うことで、組合員とその家族みんなが、短時間ではありましたが、交流を深めることができました。

今後も様々な行事を企画し、更なる組織強化の拡大をめざして取り組みます。

日教組からアンケート協力をお願いします

2023年 学校現場の働き方改革に関する意識調査

4月に文科省が公表した「教員勤務実態調査 速報値」では、これまでの日教組・連合総研調査と同様に、依然として時間外在校等時間の平均が過労死ライン（1か月あたり80時間）越えの超勤実態が明らかとなりました。現場からは働き方改革の成果が実感できないとの声が多く、長時間労働是正は喫緊の課題です。

中教審「質の高い教師の確保特別部会」では、①更なる学校における働き方改革、②教師の処遇改善、③学校の指導・運営体制の充実、が主な論点として挙げられており、来年春には答申を予定しています。一方、学校現場では、年度当初からの欠員に加え、精神疾患による休職者や早期退職者の増加により、教職員の未配置の状況はますます厳しくなっています。実感できる学校の働き方改革には、業務削減・定数改善による長時間労働の是正をすすめ、だれもが安心して働き続けられる勤務環境整備が極めて重要です。また、学校事務職員・学校栄養職員等の超勤・休日出勤に対する職場全体での36協定の締結・遵守についても、引き続きとりくむ必要があります。

アンケート結果は、「学校現場の実態」として、社会に発信するとともに、中教審への意見反映、文科省や教育委員会との交渉・協議に活用し、「実感できる働き方改革」へとつなげます。

◇ <https://rcky.org/c/index.php/376328?lang=ja>

*上記のURL または右の2次元バーコードからアンケートに入れます。

◇ 対象はフルタイム勤務の組合員です。

◇ 期間は7月18日（火）～8月21日（月）です。結果（速報値）については12月ごろに公表します。



学校現場の働き方アンケート

北部支部・東部支部が新歓行事を開催

北部支部

6月29日、北部支部は、コロナ禍を経て4年振りに、JR天満駅近くの「ピンポンバー天五バス停前店」で、新採歓迎行事が開催されました。リラックスした会場の雰囲気の中、13分会35人の参加者が食事を交えての歓談を楽しみ、後半には恒例のビンゴ大会を行うなど、大盛況で盛り上がりました。ふだん授業準備や子どもたちの対応に忙殺されている参加者にとって、ほんのひとときのリラックスできる時間となりました。



東部支部

7月7日、京橋 TERRE-a-S において、東部支部新歓交流行事「なかまつり」が開催されました。総勢45名が参加し、分会内や分会間の交流を深めることができました。交流会後半は、ビンゴ大会があり会場内に歓声があがるなど大盛り上がり。他の分会どうして交流する姿も見られ、なかまの輪を広げることができました。

～共に創る～

市教組教育研究集会

日時：9月2日（土）13:30 受付

場所：南百済小学校

近鉄南大阪線「針中野」南東380m

大阪メトロ谷町線「駒川中野」南910m

分科会 14:00～

- ・障がい児教育
- ・国際連帯の教育
- ・教科別（外国語）